

愛視協だより

発行 愛知県視聴覚教育研究協議会
事務局 名古屋市東区東桜1-13-3
NHK名古屋放送局内
TEL (052) 952 - 7293

第58回 東海北陸地方放送教育研究大会 第52回 愛知県放送教育特別研究会

テーマ 「未来を拓く学びの場を創造しよう」

主催 NHK名古屋放送局・全国放送教育研究会連盟
東海北陸地方放送教育研究協議会
愛知県視聴覚教育研究協議会
共催 NHKサービスセンター
後援 内閣府・文部科学省・厚生労働省・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会
開催方法 紙上発表

【研究発表】

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、愛知県視聴覚教育研究協議会に関わる行事の多くが中止となり、令和2年8月25日(火)にウインクあいちにおいて開催予定であった、第58回東海北陸地方放送教育研究大会及び第52回愛知県放送教育特別研究会も、残念ながら実施することができず紙上発表となりました。優れた研究実践による成果を共有し、放送教育の推進につなげていく機会が失われたことは残念でなりません。そこで、大会に向けて準備を進めていただいた提案者の先生方の研究実践

について本紙面にて紹介し、紙上発表とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインによる授業が注目を集めました。文部科学省もGIGAスクール構想の実現を推進しています。今後、益々、放送教育、視聴覚教育、情報教育の重要性が高まることが予想される中、本発表を参考にいただき、放送、視聴覚、情報教育の充実につなげていただけたらと思います。

第52回 愛知県学校視聴覚教育研究大会 令和2年度 名古屋市情報教育研究会研究発表大会

※ 紙上発表となりました。研究収録は3月初旬に送付予定です。

1 「感じる心を育てる部会」

【提案者】 須賀 康平 (小牧市立小牧南小学校)

【研究テーマ】 なんで? どうして? を「わかった! がんばって良かった!」に変える

ICT機器の活用

【対象学年】 1年生

【使用教材】 NHK for school

【研究の概要】

本学級の児童には自分の考えを伝える場面になると、発言が止まってしまうときがある。その背景には、発達段階による語彙の少なさが影響していると考えた。伝え方が分からず困る、そして、その困り感が学習意欲の低下に繋がってしまう。そこで、児童の学習意欲を低下させない授業づくりを通して「あきらめなくてよかった!」と達成感を味わえる児童を、本研究を通して育てていった。

本研究では、算数科の「おおきさくらべ(1)」で「①具体物操作をICT機器を使いスクリーンに提示」「②NHK for Schoolの視聴」「③ペア活動の活用」の三つの手だてを行った。具体物操作を行うことで、いつもは積極的ではない児童も挙手をしていた。また、授業のねらいとNHK for Schoolの視聴を組み合わせることで、児童の意欲を高めることができた。番組の途中で「これってどう思う?」と問うだけで、児童は自然とペアで話し合い活動を進めていた。その成果か、徐々に発言する児童も増え、意欲も高まっていたように感じた。ペア活動の様子を見ていると、聴き手に分かってもらおうと、言葉を選びながら話している様子が見られるようになった。

初めは自分の考えを伝えることに戸惑っていた児童も、書画カメラやNHK for Schoolを活用していくことで、意欲的に課題に取り組んでいた。単元終了時の振り返りでは「難しかったけれど、諦めずにがんばれてうれしかった」と達成感を感じた児童が多かった。

【提案者】 石塚 順子 (大野市立有終西小学校)

【研究テーマ】 自分の考えをもち 豊かに表現しようとする子の育成

～学習効果を上げるICTの基本的な活用を通して～

【対象学年】 全学年

【使用教材】 デジタル教科書、NHK for school など

【研究の概要】

本校では、「主体的・対話的で深い学び」を意識し、自分の考えを他と比較、交流させるなどしてさらなる学びにつなげ、考えを練ったり深めたりしていく授業づくりに取り組んできた。その中で、「課題把握」の場面や「考えを練り、深める」場面などにおいて、より学習効果が上がるICTの活用について研究を深めたいと考え、本課題を設定した。

そして、以下の実践を行った。

- ① ICT機器を活用するためのスキルアップ研修会を行い、全教員で共通理解し、使いたいときにすぐに手に取ることができるようにした。
- ② ICT機器を活用した一人一研究授業を行い、授業や研究会を通して、授業改善や指導力向上を目指した。

ICT機器を活用することは、「興味関心を高めたり、理解を深めたりする」「特性に応じた個別支援」「全体で共有」「思考の視覚化」「既習内容の振り返り」などに効果的であると実感した。一方で、何のために、どのようにして、どのような場面で使うと効果があるのか、そして、アナログと比較してどんな効果を上げることができるのか、ということを考える必要があると感じた。

これまでの授業実践で得られた課題とともに、今後も授業づくりを進めていきたい。

2 「デジタルコンテンツ活用部会」

- 【提案者】 大橋 諒（一宮市立三条小学校）
【研究テーマ】 ICTの「学び」への活用 ～教育の情報化～
【対象学年】 全学年
【使用教材】 デジタル教科書、NHK for school など
【研究の概要】



- デジタル教材の活用
プロジェクターで表示するので大画面で見られ、一斉指導に有効であった。NHK for schoolのクリップ資料は、実際の動きなどを確認することができ、体育や理科、社会における知識・技能の習得にとっても効果的であった。
- ドリルソフトの活用
習熟の程度や誤答傾向など各自のペースに合わせて学習を行うことができた。家庭学習用のコンテンツもあり、休校期間には自主学習に役立てられた。
- プログラミング学習
Scratchをはじめとしたソフトを使用し、プログラミングについて学習した。単元によっては、算数や理科などの教科でも使用した。
- パソコンを使った調べ学習
インターネットの便利さを実感するとともに、その危険性も知ることができた。プレゼンテーションソフト等を使用して、データ上でまとめた。
- ビデオチャットツールを活用した交流
コロナ禍において、全校が一同に会することができない中、朝礼や児童会役員・学級役員の認証式を可能にした。教室にしながら、他学級と交流をすることが可能になった。

- 【提案者】 津田 恭兵（豊橋市立高根小学校）
【研究テーマ】 学びを促す映像教材の開発
～豊橋市バイオマス利活用センターを題材とした自作映像教材の授業活用を通して～
【対象学年】 4年生
【使用教材】 自作教材
【研究の概要】

豊橋市バイオマス利活用センターを題材とし、教師が授業で活用する映像教材の開発を進めた。単元計画の中での映像教材の位置づけや内容を検討し、映像の素材収集のための取材、撮影を行った。その教育的効果について考えながら編集・制作を行った。また、並行して映像教材の活用方法や活用資料等の授業デザインづくりを進め、映像教材の活用場面・活用時間・活用方法の効果について検討した。

続けて、映像教材を活用した授業を行い、子どもたちの学びにおける映像教材の効果について検証した。授業の中での映像教材の効果や有用性を、子どもたちの反応や感想、ふり返しシートへの記述等から分析した。8割程度の児童が映像教材に高い興味・関心を示し、その後の学習においても意欲的な姿勢を見せたり、生ごみの分別について自身の意識を変えたりすることができた。

さらに、授業検証の後、映像教材の構成や内容、教育的効果について見直し、より効果が上がるよう修正点を検討した。また、開発した映像教材が市内小中学校で有効に活用されるように検討した。



3 「情報モラル研究部会」

- 【提案者】** 稲垣 翔大 (安城市立桜町小学校)
【研究テーマ】 情報の正しいやりとりを通して、豊かな人間関係を築ける児童の育成
～「情報モラル・疑似体験ツール」を使った実践を通して～
- 【対象学年】** 4年生
【使用教材】 情報モラル・疑似体験ツール (Sky株式会社)
【研究の概要】

近年、スマートフォンやSNSが子どもたちの間に急速に普及したり、インターネット利用が長時間化したりするなど、子どもたちを取り巻くICT環境は変化し続けている。

本研究では、そのような現状を受けて、インターネット上で適切なコミュニケーションをとることができ、豊かな人間関係を築ける児童の育成を目指して実践をすすめた。本実践では、まず、日常生活における気持ちのすれ違いをテーマにした道徳教材を通して、自分の思いや考えについて言葉を尽くして伝えなかったり、相手の気持ちを思い込みで決めつけてしまったりすることによって、直接顔を合わせていても人間関係にすれ違いが生じることがあることを学習した。その後、「情報モラル・疑似体験ツール」というパソコンから簡易スマートフォンが使えるソフトを使って、自分の思いや考えを伝える練習をして、実際に会って話すよりも、インターネット上のやりとりの方が、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを受け取ったりすることが難しいことを体験した。

本研究を通して、メールを送る前に自分の気持ちが相手に正しく伝わるように、分かりやすい文面になっているかどうか確認しようと意識する児童が増えた。しかし、単に絵文字やスタンプを付ければ気持ちが伝わると思い込んでいる児童も一部見られた。今後は、児童がより受け手の立場に立って相手の気持ちを考えられるような実践をしていきたい。

- 【提案者】** 伊藤 辰也 (名古屋市立本郷小学校)
【研究テーマ】 節度をもってゲームを楽しむ児童の育成
～ゲーム障害の被害と止められなくなる仕組みを知ることを通して～
- 【対象学年】** 3年生
【使用教材】 「ネットゲームに夢中になると…」(文部科学省 動画教材)、NHK for school
【研究の概要】

児童らにとってゲーム機は手軽にできる魅力的な遊び道具であるが、その魅力によってやりすぎてしまうことがある。児童らはやりすぎると目が悪くなるから節度が必要だと考えていたが、私は理由として不十分であり、やりすぎてしまうことを懸念した。

文部科学省が提供する動画「ネットゲームに夢中になると…」を視聴させた。視聴後には、ゲームをやりすぎると勉強や友達と遊ぶ時間が減り、普段の生活ができなくなるというように知識を増やすことができた。「成長」「役割」などのゲームの仕組みによってやめられなくなるようになっていることも知ることができた。楽しく遊ぶためには何が必要かと聞くと、時間を決めて守ろうという声が自然とあがった。

授業時の「節度をもってゲームを楽しもう」という態度を続けていってほしいと考え、長期休みの前後で時間を決めて守っているのかを振り返らせると、ほとんどの児童がやりすぎに注意し、時間を決めて楽しむことができていた。

今回の研究を通し、児童らはゲーム機やスマートフォンに触れる機会が増えているが、その脅威や正しい使い方について十分な知識がないことが分かった。このままではネットに潜む被害に遭う危険性がある。そのためには、正しい知識を習得させ、度々使い方を見直す態度が必要であると感じた。

4 「メディア研究部会」

- 【提案者】** 中村 翔太（名古屋市立砂田橋小学校）
【研究テーマ】 学習を振り返る教材としてのメディアの活用 ～歴史にドキリを活用して～
【対象学年】 6年生
【使用教材】 NHK for school
【研究の概要】

本学級の児童は、歴史の学習が大好きで、いつも社会の時間になると目を輝かせて取り組む様子がよく見られる。しかし、振り返りテストを行うと、高い意欲があるにも関わらず、半分以上の児童が50点を下回る結果となった。特に、歴史的な因果関係については、多くの児童が理解できていなかった。なぜ高い意欲をもつ児童たちが理解できていないのか、尋ねてみた。すると、「初めて勉強する歴史は物語みたいで面白いけど、一度知ってしまうと振り返りたいとは思わない」という意見がとて多かった。そこで、振り返りに魅力をもたせるためにNHK for schoolの「歴史にドキリ」を活用することにした。

児童たちは、番組の中で、教科書や資料集には載っていないような資料を見ることができたり、人物にかかわりが深い出来事を歌でおぼえたりすることができた。また、教室に常置してあるパソコンで、これまでに見たことがある番組はいつでも児童たちが自分で見るようにした。

番組を通して学習を振り返ることで、学習内容を定着させることができた。番組を振り返りに活用してからの振り返りテストの結果は、約30%が満点、それ以外も、ほとんどの子どもが80点以上をとった。次年度から導入される児童用のタブレットにより、より、メディアを用いた教材を活用しやすくなるため、今から楽しみだ。

- 【提案者】** 中島 勝之（福井県立若狭東高等学校）
【研究テーマ】 ICT機器の環境管理と活用推進について
【対象学年】 全学年
【研究の概要】

本校は、農業系、工業系、商業系学科が設置された全18クラスの全日制総合産業高校であり、「図書・情報センター」が校内のICT機器全般の管理と活用推進を行っている。「福井県教育ICT環境整備事業」で全普通教室に設置された『電子黒板機能付プロジェクタ』『授業支援用タブレット』の使用方法的説明や、県立学校すべてに導入されている『Microsoft Teams』を使って行うリモート会議や研修会の設定など、全教員が効率的に機器を活用してわかりやすい授業や研修ができるように講習会を定期的開催している。

生徒の利用については、「スマート教育推進事業」で導入されたタブレットを使用して、普通教科の『調べ学習』はもちろんのこと、専門学科の特性を生かした課題研究等で活用している。一例をあげると、農業科で農作物の観察やセンサーからの環境データの収集を行い、最適な育成環境の研究を行っている。

これらの機器の管理については、常に快適な環境でスムーズに使用出来るようしっかりメンテナンスし、校内で対応出来ない場合はすぐに保守業者に相談するなどして、できる限り授業や教育活動に支障が出ないようにしている。

学校教育活動の様々な場面で多くの教員や生徒が積極的にICT機器を活用しており、今後も生徒がより一層意欲的・主体的に学ぶことが出来るよう研修し、サポートしていかねばならないと考えている。

第24回 視聴覚教育総合全国大会 第71回 放送教育研究会全国大会合同大会

大会テーマ

情報と向き合い、自らを見つめ、ともに学びともに育つ新たな創造 ICT・プログラミング・メディアを学びの友として

第24回視聴覚教育総合全国大会・第71回放送教育研究会全国大会合同大会が、11月13日(金)・14日(土)の両日に開催された。本年度は、大阪府を会場に開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で通常開催が見送られ、Zoomを用いたオンライン開催となった。

13日(金)は、大阪府内の幼稚園・小中学校・高等学校・特別支援学校による公開保育や公開授業及びそれぞれの園や学校での視聴覚教育への取組が、録画のオンライン配信やライブ中継によって紹介された。NHK for Schoolの放送を生かした教育活動の取組や、本年度より必修となったプログラミング教育についての実践、GIGAスクール化に向けたタブレット端末をはじめとするICT機器の活用実践など、これからの放送教育・視聴覚教育の在り方を示す、多くの実践発表が行われた。

14日(土)は、午前中に12の分科会で実践発表と6つのテーマによるワークショップ、セミナーが開催され、午後には、全体会による大会のまとめが行われた。

本年度の合同全国大会はコロナ禍での新たな形での開催となったが、オンラインによる開催そのものが、これからの放送教育、視聴覚教育の有効性を示すものになったと感じた。

◆◆◆◆ 本年度の愛視協の活動 ◆◆◆◆

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、本年度の愛視協の主な活動は以下のようになりました。

会の名称	実施状況
愛視協総会	紙面審議
愛視協事務局会（年間4回）	中止
東海北陸地方放送教育研究会常任理事会	紙面審議
第67回 NHK杯全国高校放送コンテスト愛知県大会 第67回 NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会	中止
第37回 NHK杯全国中学校放送コンテスト愛知県大会 第37回 NHK杯全国中学校放送コンテスト全国大会	中止
第58回 東海北陸地方放送教育研究大会 第52回 愛知県放送教育特別研究会	紙上発表
第52回 愛知県学校視聴覚教育研究大会	紙上発表
愛視協だより発行	1回（126号）